

キャピタル A ブルハド(CAPI)

航空事業で中長距離運航のエアアジア X 集約が再建の鍵。スーパーアプリ、航空機整備事業拡大で成長へ
マレーシア | 旅客航空 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG CAPITALA | REUTERS CAPI.KL

- 2023/12 期 1Q (1-3 月) は、総売上高が前年同期比 3.1 倍、EBITDA と純利益が黒字転換。2019 年同期比で売上高が 88%、EBITDA が 70%。
- 事業セグメント別売上高は、航空事業グループが同 3.6 倍、物流部門が同 3.4% 増、エアアジア・デジタルが同 2.8 倍と伸長。
- 航空事業で中長距離運航のエアアジア X 集約が経営再建の鍵。デジタル事業のスーパーアプリ、航空機整備事業の拡大が成長エンジン。

What is the news?

5/31 発表の 2023/12 期 1Q (1-3 月) は、総売上高が前年同期比 3.1 倍の 25.30 億 MYR、EBITDA が前年同期の▲3.09 億 MYR から 5.02 億 MYR へ黒字転換、純利益が同▲10.77 億 MYR から 26 百万 MYR へ黒字転換。新型コロナ禍前の 2019/12 期 1Q 比では、売上高が 88% の水準も、EBITDA が 70% の水準に回復した。前四半期比では、総売上高が 6.8% 増、EBITDA が 2.7% 増だった。

1Q の事業セグメント別の売上高は以下の通り。①航空事業グループは前年同期比 3.6 倍の 21.98 億 MYR。ロードファクター (有償座席利用率) が同 12 ポイント上昇の 88%、1 乗客当たり平均料金が同 60% かつ 4 年前同期比 26% 上昇、1 乗客当たり関連サービス収益が前年同期比 65% 上昇した。②傘下のテレポートが担うロジスティクス (物流) 部門は同 3.4% 増の 1.52 億 MYR。EBITDA も黒字転換だった。③デジタルおよびその他部門 (エアアジア・デジタル) は同 2.8 倍の 1.79 億 MYR、「Airasia.com」プラットフォームの Airasia Super App が同 2.8 倍の 1.59 億 MYR、決済を手がける BigPay Group が同 79% 増の 11 百万 MYR と伸長した。Airasia Super App は EBITDA が黒字に転換した。

How do we view this?

同社はコロナ下で大幅赤字が長期間続いたことで財務は悪化し、22 年 1 月よりマレーシア証券取引所より速やかな財務改善が求められる警告銘柄として「PN17」に指定されていたなか、債務超過額が 22 年 12 月末時点で 94 億 MYR に上っていた。

航空事業グループにおいて短距離路線を運航するインドネシア、フィリピン、タイの 3 社と中長距離路線を運航するエアアジア X の 4 社を集約する事業再編構想を既に発表しており、年央までに公表予定計画の動向が注目される。更に、その他 2 点に注力の方針である。第 1 に、デジタル事業に注力し、Airasia Super App を食事宅配や金融など幅広いサービスを提供するスーパーアプリとして成長を目指す方針だ。第 2 に、航空機整備事業を拡大し、自社グループ以外にも展開していく方針。同社は 4 月、整備子会社が 1 億ドルの資金調達を固めたのを受け、クアラルンプール国際空港に大型の整備施設を新設すると発表している。

業績推移

※参考レート 1MYR=30.82円

事業年度	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12F	2024/12F
売上高 (百万MYR)	3,274	1,682	6,437	10,274	11,677
当期利益 (百万MYR)	-5,111	-2,991	-2,626	-3	397
EPS (MYR)	-1.53	-0.79	-0.65	0.08	0.19
PER (倍)	-	-	-	9.75	4.11
BPS (MYR)	-0.36	-0.87	-1.38	-1.16	-1.00
PBR (倍)	-	-	-	-	-
配当 (MYR)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
配当利回り (%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (MYR) **0.00** (予想はBloomberg)
 終値 (MYR) **0.78** 2023/6/27

会社概要

ワナー・ミュージックのアジア地域役員だったトニー・フェルナンデス氏が2001年に創業。マレーシアのクアラルンプール国際空港を拠点とする世界屈指の規模のLCC (格安航空会社) の航空事業は、マレーシアのほか、インドネシア、フィリピンで連結子会社、タイで持分法適用の関係会社を有する。2022年1月に社名を「エアアジア・グループ」から「キャピタルA」に変更し、デジタル事業への進出を本格化してきている。

同社グループは、①航空事業グループ、②ロジスティクス (物流) 部門、③エアアジア・デジタル部門の3事業部門セグメントから構成される。

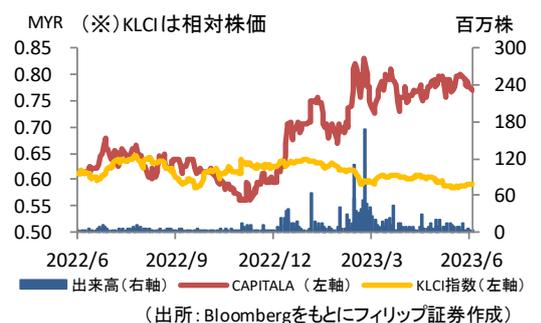
航空事業グループ部門は、マレーシア・エアアジア (MAA)、インドネシア・エアアジア (IAA)、フィリピン・エアアジア (PAA) のほか、タイ資本のアジア・アビエーションを筆頭株主とするタイ・エアアジア (TAA)、およびその他の関連会社および合併事業を傘下に擁する。

ロジスティクス部門は、傘下のテレポートがアセアンを中心に日本でも貨物輸送を営んでいる。

エアアジア・デジタル社が担うデジタル部門は、物流を手掛ける「Teleport」、オンライン販売のプラットフォームである「Aiaasia.com」を運営する「Airasia Super App」、決済事業を営む「BigPay Group」の主要3事業とするほか、その他のデジタル事業を営む。

企業データ (2023/6/28)

ベータ値 0.88
 時価総額 (百万MYR) 3,251
 企業価値=EV (百万MYR) 16,660
 3ヵ月平均売買代金 (百万MYR) 7.9



主要株主 (2023/6) (%)

1.TUNE AIR SDN BHD	12.39
2.TUNE LIVE SDN BHD	12.21
3.POSITIVE BOOM LIMITED	7.98

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。